

## 第1回『日本語教育』論文賞 受賞論文

### 〈論文名〉

「日本生まれ・育ちの JSL の子どもの日本語力—和語動詞の産出におけるモノリンガルとの差異—」

掲載号：『日本語教育』160号（2015年4月発行），pp. 64-78

執筆者：西川朋美氏（お茶の水女子大学大学院）、青木由香氏（富山県西部教育事務所）、細野尚子氏（鎌倉市立御成小学校）、樋口万喜子氏（横浜国立大学）

### 【授賞理由】

本論文では、日本で（生まれ）育った日本語を第二言語とする（以下、JSL）子ども達の基本的な和語動詞の産出について、モノリンガルの子ども達と比較した問題点について実証的かつ詳細に分析している点が評価される。また、誤答分析の結果、学校場面で用いられることの少ない動詞・用法の産出が弱く、動詞の意味範囲を間違えて適用したケースや母語の影響と考えられる誤用も見出ししている点など、示唆に富んでいる。JSL の子ども達への指導に関する提案の部分も含め、日本語教育の発展に大きく貢献することが期待される。

(1) 日本語教育現場に対する示唆が具体的である。

日本での定住化や国際結婚によって、JSL の子ども達が増えているが、彼らの日本語習得研究として先駆的な内容を含み、現場への還元を追求した点で高く評価できる。特に、従来見過ごされがちな「簡単な語」が、JSL の子ども達にとって難しい面があることを実証したことが具体的な示唆となると思われる。

(2) 論旨が明確で、論文としての完成度が高い。

本研究では、記述式調査票を用いた大規模調査を行っている点が、また、確実な統計的分析と、動詞の意味範囲の相違や母語の影響による誤用の質的な分析など、実証性にも優れており、論文としての完成度が高い。

(3) 新しいテーマにチャレンジしている。

日本語力上、一見、問題がないように見える JSL の子ども達に関して、大規模調査を用い、従来明らかでなかった語彙力の背景について踏み込んでいる意味で意欲的な研究であり、指導や施策に関しても提案している点が将来につながる内容となっている。

(4) 専門領域をこえたわかりやすさを有する。

JSL の子ども達の言語能力については、基本的な和語動詞の習得という切り口で分析を行っている点が専門領域をこえたわかりやすさにつながっている。また、理解テストではなく、産出テストを選択した点は実態に即した調査という点で評価できる。

以上

# 第1回『日本語教育』論文賞 受賞論文

## 要 旨

### 日本生まれ・育ちの JSL の子どもの日本語力 —和語動詞の産出におけるモノリンガルとの差異—

本研究では、日本で（生まれ）育った日本語を第二言語とする（以下、JSL）子どもの和語動詞の産出について、記述式調査票を用い、量的に調査した。調査対象とする動詞は、日本語モノリンガルが母語習得過程で自然に身につけると考えられる 31 語である。本稿では、比較対象とする同年齢のモノリンガルの点数が安定する小学 4 年生以上に絞りを絞り、結果を報告する（モノリンガル n=924；JSL n=124）。分散分析の結果、全ての学年において、JSL とモノリンガルの得点には有意差があり、効果量も大きいことが分かった。一部の「できない子」は、JSL とモノリンガルのどちらにも存在するが、最下位層と位置付けられた子どもの割合は、JSL とモノリンガルでは 5~10 倍程度の違いが見られた。また、誤答の詳細を分析した結果、JSL では学校場面で用いられることの少ない動詞・用法の産出が弱く、動詞の意味範囲を間違えて適用したケースや母語の影響と考えられる誤用も見られた。

### Japanese Proficiency of JSL Children Born/Raised in Japan: Differences in Producing Basic Japanese Verbs Compared to Monolingual Children

NISHIKAWA Tomomi, AOKI Yuka, HOSONO Naoko and HIGUCHI Makiko

In this study, 924 monolingual children and 124 JSL children completed picture questionnaires that were developed to test their ability to produce 31 basic Japanese verbs. Quantitative analyses revealed statistically significant differences between the monolingual and JSL groups. Although there were individual differences within each group, the JSL group had a higher proportion of children in the lowest group. A close examination of errors revealed the JSL children's limited competence with verbs that are not frequently used in the school context. Further, some errors were ascribed to misunderstanding of the semantic scope of the verbs, as well as L1 influence.

(Nishikawa: Ochanomizu University, Aoki: Toyama Prefectural Board of Education, Seibu Office,  
Hosono: Onari Elementary School, Higuchi: Yokohama National University)